兒童心理学

子供の心はいかに発達するか

山下俊郎著

兒童心理學

子供の心はいかに發達するか

山下俊郎著

光文社

著者紹介

一、山下俊郎氏は、鹿兒島一中、一高をへて、昭和三年、東大文学部心理学科を卒業した。同期に波多野完治、牛島義友、一期あとに正木正、依田新、相良守次等、現代心理学界を代表する諸教授がある。

一、昭和五年、長女雅子さんが誕生し、家庭教育相談所に関係するに及んで、豁然として悟るところあり、從來の理論心理学の研究を捨て、もつぱら兒童の心理およびその教育の実際的研究をもつて今日にいたつている。

一、その間、恩賜財團母子愛育会愛育研究所所員、同教養部長、東大文学部講師等を歴任した。現在、東京家政大学教授。また文部省幼兒教育内容調査委員会委員、文部省青少年教育審議会委員、文部省教育課程審議会委員として活躍している。

一、主著に「幼兒心理学」「教育的環境学」「一人子の心理と教育」等がある。

一、現住所　東京都北多摩郡小金井町貫井五一七

兒童心理学

——子供の心はいかに発達するか——

昭和二十四年十二月廿五日初版発行
昭和二十八年二月一日廿三版発行　定價四百圓

著者　山下俊郎
発行者　神吉晴夫
印刷者　山元正宣
印刷所　三晃印刷株式会社
東京都文京区柳町二六

発行所　株式会社　光文社
東京都文京区音羽町三ノ一九
電話九段(33)一三一—一三九
振替東京一一五三四七番

(関川製本)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

序

子供の心を少しでもよく知つてもらいたいということは、わたくしにとつて、世の親や教師や子供に接する人たちに対するながい間の願いである。子供をあんなに愛している親なのに、子供をあんなにも可愛がつている教師なのに、そしてあの愛をほんとに生かして子供にまつすぐな成長をさせてゆくのには、子供たちの心の生活をもう少しよく知つてもらつたらいいのに、と考えることは、今までわたくしがいくたびか経験したことである。今日、新しい教育がだんだんと軌道に乗つてくるにつれて、このわたくしの願いが、しだいに容れられてきそうである。子供たちの心の生活に対する正しい理解を與えてくれる兒童心理学の必要性が、だんだんに認められてきているからである。

わたくしは幼兒の心理をよく理解してもらいたいとの願いから、昭和十三年に「幼兒心理学」を書いた。さいわいに世の多くの親、教師、保姆というような人々に読んでもらうことができて、わたくしの願いがかなえられているようである。この書は、小学校の兒童の心理について、

「幼兒心理学」と同じような意味のものを書きたいというかねてのわたくしの願いと、光文社の神吉晴夫氏の熱心なおすすめとによつて生まれたものである。小学校兒童の心理についての理解を、世の教師や親たちに深めてもらうことができれば幸いである。

この「兒童心理学」を書くにあたつて、わたくしは三つのことに、とくに重きをおいたつもりである。その第一は、できるだけ分かりやすい平明な書き方を心がけたことである。第二には、兒童心理の事実をのべるさいに、できるかぎり実証的な内外の研究の結果にもとづいて書いた。そして、その研究の結果はできるだけ図や表によつて、具体的な材料を示すようにしたつもりである。第三には、これらの実証的研究の結果を、子供の実際の教育や指導のうえに役立てるように、つねに実際の教育指導との連関を考えるように心がけたつもりである。

この書の中心問題は、いまのべたように、小学校兒童の心理であるが、この子供たちの成長の前の段階である乳幼兒期の心理への理解は、小学校の子供たちの心理を理解するうえに必要であるので、これについて第一編で一とおりのべた。また子供の成長からいつて、兒童期の次の段階である青年期についても一とおりの理解がのぞまれるので、簡單ながら第四編をその叙述にあてた。第二編と第三編とはこの書の中心である。第二編では、兒童の心的生活にいろいろの部面を

わけて、その発達をできるだけ具体的にくわしくのべた。第三編では、第二編でのべた材料をもとにして、小学校の学年別の特質を描きだそうとつとめてみた。第二編で児童の一つ一つの心的生活の発達を年齢にそつて縦断的にながめ、第三編で心的生活を学年別に横断的に考えてみたのである。これはゲセルの著書に示唆された試みである。学年別の特質を明きらかにしたいと考える読者は第三編をさきに読んで、さらに、そのくわしい説明を第二編に求めるというのも一つの読み方であろう。なお、いろいろの心理的事実の解説をひき出しやすいように索引をできるだけくわしく作ることを心がけたつもりである。

この書を書くにあたつて、内外の心理学者の研究業蹟に負うところが非常に大きい。わけても、わたくしの喜びは、多数のわが國の研究の結果を盛りこむことができたことである。外國の研究の結果については、とくに、ゲセル、ジャーシルド、ヴィンセントおよびブレッケンリッヂなどの著書に大部分を負うている。以前のように、専門雑誌によつて外國の研究の原典を見ることができるところまでいつていない今日においては、これらの著書に負うところは、まことに大きいものであつた。このような内外の児童心理学の研究は、今日非常にすすんできているのであるが、さらに、わが國において、いつそうの研究がすすめられることを、子供たちのしあわせの

ために望みたいと思う。

なお、この書の原稿の整理と索引の作製には副田澄子さんの手をわずらわした。また神吉晴夫氏の熱心なおすすめと、光文社出版局の方々の御努力によつて、この書は完成されたものだと言つていい。これらの方々の御骨折りに対して感謝の意をあらわしたい。

一九四九年一一月

著　者

目次

序……一
序論……三
一　兒童心理学と教育……三五
二　兒童の精神発達の段階……三六
三　兒童期の意義……四〇
第一編　乳幼兒の心理……四五
第一章　乳兒の心理……四七
一　新生兒……四七
一日中の生活経過（四七）　運動（四八）　感覚（四八）　感情（四九）　新生兒

の生活（四九）
二　感覚生活……五〇
視覚（五〇）　聴覚（五〇）　感覚の連絡（五一）　感覚の教育（五一）
三　運動の発達……五一
月齢による運動の発達（五二）　指さきの運動（五三）　運動の発達と保育（五三）
四　感情と社会生活……五五
不快の感情（五五）　快の感情（五五）　感情の動き（五六）　社会性の芽ばえ（五六）　感情と社会性の保育（五六）
五　知能の芽ばえ……五七
注意のはたらき（五七）　記憶と模倣（五七）　知能の芽ばえ（五七）
六　乳児の心理的特質……五八
第二章　幼児の心理……五九
一　運動の発達……五九
歩行運動の発達（五九）　歩行運動の完成（六〇）　全身運動の型の発達（六一）
手さきの運動の型の発達（六一）　手さきのたくみさの発達（六二）　運動の

発達と保育（六四）

二　言葉の発達……六四

最初の言葉の性質（六四）　言葉の発達の一般的径路（六五）　語彙の発達（六七）　文章の発達（六八）　発音の発達（六八）　言葉の保育（六九）

三　幼児の思考……六九

思考のはじまり（六九）幼児的思考の特徴（七〇）幼児の具体的思考（七〇）思考の自己中心性（七一）　自己中心性のあらわれ（七一）　幼児の思考の特質と保育（七三）

四　情緒生活……七四

幼児の情緒生活の意義（七四）情緒の分化（七五）情緒の発達の條件（七六）情緒の発達的傾向（七七）　恐れ（七八）　怒り（七九）　しつと（八〇）　泣くこと（八一）　喜びと笑い（八一）　愛情（八二）　情緒と性格教育（八三）

五　社会性……八三

おとなとの関係（八四）　反抗期（八四）　課題意識（八五）　子供同志の交渉の始まり（八六）　社交性の芽ばえ（八六）　幼児のグループ形成（八七）　グループの発達（八七）　グループ形成の條件（八九）　社会的行動のいろい

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ろ（九〇）社会性の保育（九〇）
六　遊び……九一
心の働きから見た遊び（九一）遊びのまとまり（九三）遊具から見た発達（九四）遊びに影響するいろいろの條件（九六）おもちやの選び方（九八）遊びの教育（九九）
七　習慣……九九
習慣の心理（九九）基本的習慣（一〇一）食事の習慣（一〇一）睡眠の習慣（一〇四）排便の習慣（一〇五）着衣の習慣（一〇七）清潔の習慣（一〇七）基本的習慣の自立規準（一〇九）基本的習慣と保育（一〇九）
八　幼児の心理的特質……一〇九
発達の速度（一〇九）幼児心理の全体的特性（一一〇）情緒性（一一〇）具体性（一一〇）自己中心性（一一〇）幼児心理の特性と保育（一一一）
第二編　兒童の心理……一一三
第一章　新入学兒童の心理……一一五

一　生活形態の轉移……二六
生活の場のひろがり（二六）　順應の個人差（二七）　順應の要求するもの（二八）　二つの世界への順應（二九）　順應の精神衞生（三〇）
二　遊びと仕事の分化……三〇
遊びの生活から仕事の生活へ（三一）　課題意識の発達（三二）　遊びと仕事の分化（三三）　仕事の分化への誘導（三四）
三　社会生活への適應……三四
社会性の発達段階（三五）　新入学兒童のグループ形成（三五）　教師の役割（三五）　非社交的兒童の問題（三六）
四　生活指導の出発点……三七
基本的習慣の檢討（三七）　生活指導の出発点（三七）
第二章　運動の発達……三九
一　全身運動の発達……三〇
運動の型の発達（三〇）　運動の量的発達（三一）　姿勢の発達（三四）
二　手さきの運動の発達……三四

手さきの運動の発達傾向（一三五）　運動の型の発達（一三六）　運動の速度の発達（一三七）　運動の正確度の発達（一三八）

三　利き手の問題……一三九
——左利きと右利き——

左利きの割合（一三九）　利き手の決定される時期（一四〇）　利き手の発生條件（一四〇）　左利きのきより正（一四一）

四　運動の発達と教育……一四三

運動発達の全体的傾向（一四一）　運動の教育（一四三）

第三章　言語生活の発達……一四五

一　発音の発達……一四五

正しい発音の発達（一四六）　発音の発達の遅滞（一四六）　発音遅滞兒の教育（一四七）

二　話し方の発達……一四八

話し方の波（一四八）　話の音声と内語（一五〇）　内語の発達（一五〇）　音読と黙読（一五一）

三　語彙の発達……一五一
新入学児童の語彙（一五一）　語彙の量的発達（一五二）　語彙の質的発達（一五三）
助詞表現の発達（一五三）
四　文章の発達……一五五
文章の構造（一五五）　文章の長さ（一五六）　文章の表現型式（一五六）
五　言語の教育……一五七
言語と思考（一五七）　言語の教育（一五七）
第四章　数意識の発達……一五九
一　幼児の数意識……一五九
かたまりの感じ（一五九）　数系列の成立（一六〇）　集合数の理解（一六一）
二　新入学児童の数意識……一六一
数詞と計数（一六一）　数的処理の能力（一六二）　計算能力（一六三）　数の教育の出発点（一六四）
三　児童における数意識の発達……一六四
数系列の発達（一六五）　分数および小数の観念（一六六）　数体系の理解（一六七）

函数観念の発達（一六八）　知能と数的処理能力（一七〇）
四　数意識の発達と算数教育……一七一
数意識の発達傾向（一七一）　数の教育の方向（一七一）
第五章　記憶と注意……一七三
一　幼児の記憶……一七三
記憶の量的発達（一七三）　感情の影響（一七四）　無形的なことがらの記憶（一七四）
全体的記憶（一七五）
二　児童の記憶の発達傾向……一七五
直接記憶の発達（一七五）　機械的記憶と論理的記憶（一七六）　視覚的記憶と聴覚的記憶（一七九）
三　忘却と再生……一八一
忘れるということ（一八一）　忘却曲線（一八一）　学習曲線と忘却曲線（一八二）
再生に関連する問題（一八四）
四　直観像……一八六
直観像の意味（一八六）　児童と直観像（一八七）　直観像と他の精神機能との関

係（一八八）
五　注意の発達……一八八
幼児の注意（一八九）　新入学児童の注意（一八九）　児童の注意（一九〇）　注意の発達（一九一）
六　記憶および注意の発達と指導……一九一
記憶の発達的特質と指導上の考慮（一九一）　注意の発達的特質と指導上の考慮（一九二）
第六章　思考の発達……一九三
一　思考発達の方向……一九三
思考の具体性のゆくえ（一九三）　自己中心性の解消（一九五）
二　抽象と概念……一九七
抽象の意味（一九七）　抽象作用の発達（一九八）　抽象概念の理解（一九九）　定義作用の発達（二〇一）
三　推理の発達……二〇二
簡単な推理の発達（二〇三）　推理方法の発達（二〇四）　形式推理（二〇六）

四　問題解決と創造的思考……二〇六
批判力の発達（二〇七）　問題解決（二一〇）　創造的思考（二一二）
五　思考の発達と教育……二一三
思考の発達段階（二一三）　思考教育の基本的態度（二一四）
第七章　興味の発達……二一五
一　興味の意義と方向……二一五
興味の意義（二一五）　興味の方向（二一六）
二　興味の発達傾向……二一六
発達と興味（二一七）　質問と理想にあらわれた興味の方向（二一八）　蒐集（二一〇）
興味の発達傾向（二一二）
三　興味の種々相……二一二
読書の興味（二一二）　学科に対する興味（二一六）　疑問にあらわれる興味（二一六）
討論における興味（二一八）　蒐集にあらわれる興味（二一〇）　その他の興味
（二一二）
四　興味の條件……二一二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com